

## 平成 30 年度 第 1 回小松市総合教育会議 議事録

1 日 時 平成 30 年 7 月 3 日 (火)  
開会 14 時 00 分 閉会 15 時 00 分

2 会 場 小松市役所 3 階 3B 応接室

3 出席者 小松市長 和田 慎司 (議長)  
小松市教育委員会  
教 育 長 石黒 和彦  
委 員 北村 嘉章  
委 員 蘆邊 千鶴子 【欠席】  
委 員 吉原 慎吾 【欠席】  
委 員 中惣 恭子

(事務局関係)

|                    |        |
|--------------------|--------|
| 総合政策部長             | 越田 幸宏  |
| 総合政策部 国際&経営政策課長    | 藤井 勝司  |
| 総合政策部 国際&経営政策課担当課長 | 中野 芳美  |
| 総合政策部 国際&経営政策課事務員  | 嶋田 裕介  |
| 教育委員会事務局 教育次長      | 道端 祐一郎 |
| 教育委員会事務局 シニアマネージャー | 山本 裕   |
| 教育委員会事務局 未来の教育課長   | 中谷 光恵  |
| 教育委員会事務局 教育庶務課長    | 三ツ橋 薫  |
| 教育委員会事務局 学校教育課長    | 吉田 明生  |
| 教育委員会事務局 青少年育成課長   | 松野 真弓  |

4 討議事項 ・学校規模適正化について

5 会議の経過及び発言

○開 会

○和田市長あいさつ

- ・この総合教育会議はいろんな観点から議論いただく会である。答えの出ないもの、5年後、10年後を議論することもある。
- ・大阪でのブロック塀や富山での事件等もあるが、日々の安全・安心 100%をめざしながら、未来に向かっていきたい。
- ・教育は経済がどんなに苦しくても取り組んでいくことが将来の日本、地球全体の発展につながるものと考えている。

- ・4月から松東みどり学園もスタートした。校長をはじめ皆さん大変がんばっているの、一度見に行つてほしいと思う。また、学校の増築について話を詰めているので、ハードに加えてソフトの議論もお願いしたいと思っている。
- ・大学についても250名の1期生が入学し、これで3ヶ月が経つが一人も欠けることなく学んでいる。良い人材に入ってきていただいているし、先生方もがんばっているので、ぜひ、激励していただきたい。
- ・9月から市民大学も開講し、学びのまちとしての深層を深めていきたい。

#### ○討議事項

- ・学校規模適正化について

##### 〈議長〉

- ・学校規模適正化についてはすでに委員会が設置され、議論を重ねていただいております簡単に結論の出る話ではないが、五箇条の御誓文の1条、広く会議を開き万機公論に決すべし、とあるように本日も意見をいただきたいと思います。

##### 〈中谷未来の教育課長〉

##### 【学校の規模適正化の背景】

- ・日本の人口が2008年をピークに減少に転じている
- ・0～14歳の人口も1980年代から減少を始めている。
- ・これにより小中学校の小規模化が懸念されており、地域に応じた適切な学校教育のあり方や、学校規模を主体的に検討することが求められている。

##### 【文部科学省の手引きより】

- ・文部科学省では各市町村での検討資料として、公立小学校・中学校の適正規模・適正配置に関する手引きを作成した。
- ・基本的な考え方として、単に教科の知識や技能を習得させるだけでなく、思考力・表現力・判断力・問題解決能力などを育み、児童生徒が集団の中で多様な考えに触れ、認め合い、互いに協力し合い切磋琢磨することを通じて、ひとり一人が資質や能力を伸ばしていくとともに、社会性や規範性を身に付けさせることが重要となる。
- ・こうした教育を十分に行うには経験年数、専門性、男女比などについてバランスのとれた教職員集団が配置されていることが望ましいとの考えから、一定の集団規模が確保されていることが望ましいとされている。
- ・そこで文部科学省では、複式学級の解消やクラス替えを可能とするために、学校規模の標準を「小・中学校ともに12学級以上、18学級以下」としている。ただし、特別な場合はこの限りではないとなっている。また、通学条件の基準を「小学校4km以内、中学校6km以内、概ね1時間以内」となっている。
- ・また、学校が地域コミュニティの核としての機能を持っているという点がある。地理的要因や地域事情などに配慮して、小規模校の存続を選択する判断を尊重するとしている。

- ・いずれの場合も保護者や地域住民の声を聞き、理解と協力を得るなど丁寧な議論を重ねることが大切とされている。

#### 【小松市の状況】

- ・小松市の児童生徒数も5年前から減少を続けている。今後も減少していくことが見込まれている。

〈議長〉減少するというのはどのような条件での見込みか。人口の推計は条件設定によって値が異なってくる。市の人口をある条件で推計したとき、若干減少はあるが当初予定していたよりも人口が上振れしている。現在、若年者の転入も多い状況である。減少の見込みを間違えてはいけないと思う。地域によっても事情が異なると思う。数値の捉え方がわかるようにしてもらいたい。

〈三ツ橋教育庶務課長〉数字の前提は現在の児童生徒数が一学年ずつ推移していった際に減少していくと見込んでいる。その他の要因は考慮されていない見込みである。

〈中谷未来の教育課長〉厳密な数値は条件により異なるが、大きな流れとして減少傾向にある状況かと思われる。

〈越田総合政策部長〉人口については自然の成行きよりも上振れで推移しているので、その要因をどの程度加味するかという点があるため、幅を持った見込みや数値を用いる必要かと思う。

- ・将来の学級数の課題を考えると、複式学級（1クラス複数学年）となる小学校や、中学校においても単級（1学年1クラス）となる学校が出るなどが考えられる。一方で大規模学校の小学校もある状況となり、市内の学校での学級数の差が発生することが考えられる。
- ・また、学校において通学距離に差があることや、1つの小学校から2つの中学校へ分かれて進学するなどの課題もある。

#### 【今後の計画】

- ・小松市教育委員会では、小中学校の望ましい学校環境の整備や、適正規模についての総合的な検討をするために、「小松市学校通学区域検討委員会」を設置した。
- ・委員は地域代表者、保護者代表者、学識経験者、学校関係者で構成されている。
- ・小松市として、児童生徒にとって望ましい教育環境の基本的な考え方や具体的な方策を検討していく予定である。
- ・今後検討していく視点として、通学区域や学校の統廃合や、一貫校の新設などが挙げられる。大学と連携した特色あるカリキュラム等も考えられる。
- ・今後、この検討委員会は10回程度開催し、2020年3月には提言書をまとめて提出する予定。

〈石黒教育長〉文部科学省より学校の規模適正化に関する様々な計画や内容が出ているが、それにはひとつ一つ理由がある。子どもの人数が少なくなったから統合するのではなく、子どもたちにどのようなチカラをつけていってもらおうかという視点を持つことが大事である。いかに質の高い学校をつくっていくのかということで松東みどり学園をスタートしている。その方向性は小松市教育委員会として大事にしていきたい。

〈中惣委員〉単級の学校のお話があったが、いくつか計画訪問でまわったことがある。単級での良さもあり、一概に単級が悪いというわけでないと思うが、教育の質の向上については多くの子どもたちが通う学校よりは劣ってしまうのかとも思う。単級の学校同士で連携した授業を行うなどの取り組みをお聞きしているので、そのような対応策も有効であるかと思う。

〈北村委員〉松東みどり学園で3校が統合したが、地域の方は各学校を存続させたいという思いが強かったのではないかと思う。今回の検討委員会のメンバーで地域や保護者の方々が入っているが、自分たちの地域の学校というだけではなく、広い視野や未来を見据えた考えなど、その会議の主旨をしっかりと理解していただくことが必要。その会議のメンバーからの意見はどのようなものであったか。

〈道端教育次長〉1 回目の会議が終わっている。一つの地域に捉われることなく、大きな視野で見てほしいという会議の方向性等はその際にメンバーに説明している。

〈石黒教育長〉・松東みどり学園をスタートするにあたり、以前に調べたことがあるが、日本の今の学校の課題がいくつかある。いじめや不登校はいまだに少なくならない。また、小松市内では外国人の児童生徒が少しずつ増加してきている。今後 ICT の利活用は避けてはとおれない状況であり、その能力をつけていく学校が求められてくる。また文部科学省が言っている活用力をつけていくことも必要となってくる。

- ・こういった意味では子どもの人数が多くても少なくても、どちらでも対応はできると私は考えている。
- ・外国の学校を調べてみると、日本では1学級1人の担任であるが、オランダでは1学級で2人の担任がいる。またフィンランドでは小中9年間の一貫教育であるが、国の方針として個別の能力や個性を育てていくというものがある。ひとり一人が異なった学習をしており、保護者と担任が話し合いながら、その子にどのような教育がよいかということ話を話し合って取り組んでいた。また学校は地域コミュニティの核となっており、15時30分以降は学校施設を地域に22時まで開放したり、学校の図書館を地域の図書館として開放したりしている。
- ・適正規模化とあるが、ただ単に人数の調整をするのではなく、どのような教育を求めていくのかという点が最初にあるものである。将来的なことも見据えて、このような点から適正規模化を考えていきたい。

〈北村委員〉・松東みどり学園は、一つのモデルケースとしていくという考え方であった

かと思う。一番大切なことは単なる適正規模化ではなく、小松市としての大きな教育の方向性を示すことであると思う。

- ・また、これからは集団、団体意識が大切になってくる。
- ・将来を見据えて、必要なことを学ぶカリキュラムを編成することが大切。
- ・これからは市として新しい学校をどのようにつくっていくか、青写真を描くことが大切であり、その一部が学校規模適正化である。
- ・文部科学省の通学距離として小学校 4km、中学校 6km とあるが、これは都会の発想である。小松での学校を考えていかなければならない。

〈中惣委員〉北村委員と同意見で、やみくもに統廃合をするのではなく、教育長の言うとおり生徒の個々の能力を伸ばすには何が大事になるかということを中心に考えて、集団や団体ということを経験させる場を提供するということを考えていったほうがよいと思う。

〈石黒教育長〉アメリカの教育では以前から、個々の能力を高めたり、リーダーを育成する教育を行ってきた。最近になって、日本の教育に学び、高校までの総合的な教育がリーダーの育成になるという方向性が出てきている。国際的な学力をみても日本はシンガポールや韓国といったトップクラスの国に匹敵するような状況。小松市をみても、日本でトップクラスの状況にあるので、校舎づくりではなく、先を見据えた学校教育づくりの展望をもつ必要があると思っている。

〈北村委員〉・単なる適正規模という枠組みだけの統廃合はだめ。地域としてどういう学校にしていきたいかということが大切。

- ・また、小学校、中学校といった枠組みも考えていかななくてはいけない。将来を見据えての大きな統廃合があってもよいと考える。
- ・あまり少人数の学級ばかりでは、社会に出たときに適応しにくい場合がある。部活や学校の集団活動を経験することで、社会の集団活動になじんでいくことができる。

〈石黒教育長〉これからの市の産業はどのように変わっていくか。

〈議長〉・今よりもっとボーダーレスになっていく。サッカーのワールドカップを見ても様々な人種の人がチームとなって競い合っている。日本は単一的な人種の国であるが、それは変わっていく。

- ・日本の産業の半分は海外で成り立っている。様々な人が交わってビジネスが進んでいく。
- ・このような流れをみて、これからの子どもたちが将来どのような環境に置かれるかということを、まず文字や絵にしていけることが大切である。10年後、20年後はどのような社会の中で大人として活躍するという文字や絵といった形をつくった方がよい。
- ・そこへ到達するためにどうするかということで、教育の規模や質などの課題や、先生方の能力を高めていくかということが見えてくる。

- ・学習指導要領で示されていることを教えていくことも大事であるが、そうではないことも多くなってきている。
- ・小学校から6年、3年、3年と教育の枠組みがあるが、子どもたちの学力や身体能力も上がってきているし、こども園といったものもあるので、見直すことも必要。
- ・18歳で成人になるような時代になる。高校生で成人となる。チャンスが多くなるが、辛さもある時代になる。どのような場所へ行っても自立して活躍できる基礎をつけていくことが義務教育の基本であると考えている。
- ・規模適正化という言葉に執着してしまうと本質を見誤ってしまう。
- ・これからは多様性も大切。公立だけではなく、私立や国立もあってもよい。勉強だけでなく、スポーツや芸術など多くの選択肢を用意することも必要だと思う。

〈中惣委員〉東京では電車やバスで通学をしている小学生も多く、その時間を有効に活用し、熱心に本や教科書を読んでいる子どもたちよく見かける。都会では意欲的な子どもたちが多いように感じる。田舎が悪いという訳ではないが、意欲的になるような方向性がほしいところである。

〈議長〉今は子どもたちの幅も広く、様々な子がいる。それをどのようにまとめていくかということは難しいことである。その現実を理解しながら、教育を行っていくかということを経営でも考えていきたい。

〈中谷未来の教育課長〉皆様のおっしゃるとおり、学校の数や規模等だけでは、適正化を考えていくことはできない。小松市の子どもたちへの教育をどのようにしていくかということを考えてから、適正化について考えていくものと思う。

〈吉田学校教育課長〉松東みどり学園の活性化部会では、この学校の特色をどのように活かしていくかということを経営において考えて行っている。子どもたちに何を学んでもらうかという視点は大変大事だと思っている。

〈松野青少年育成課長〉少子化が進んでいる地域では、地域で子どもたちを育てたいという意見が出ることが多い。しかし、地域の方もどのような子どもを学校と一緒に育てて行きたいかという視点が明確になっていない部分がある。

〈議長〉そのようなことがないように、「学びの道しるべ」を皆で考えて策定した。5か条からなるが、読むと保護者がどうすべきかという視点もある。今は「学びの道しるべ」を前面に出していけばよいと思う。

〈山本シニアマネージャー〉小松の教育の将来像が基本の考え方になるかと思う。そのためには、子どもたちをどのように育てるか、どんな学校にしていこうかといった学校のあり方や多様性を考えてもよいのではないかと思う。一方で、学校では地域の人間関係をつくっていく大本となるものである。地域を支えていく基本となる校区というこ

とも大事にしていく。この2点をどうしていくかということが今後、課題となるのではと思う。

〈三ツ橋教育庶務課長〉義務教育学校の良さというものを十分に理解いただいていない部分があるかと思う。小学校と中学校が相互に良い影響を与えあう良い学校であるということを、もっと皆さんへお知らせしなくてはいけないと考えている。

〈議長〉松東みどり学園の校旗には6つの矢印がついている。「義務教育学校」と言うから難しいのであって、9年間の学校として、部活を5年生から始めたり、小・中と同じ枠組みで部活をするなど、様々なメリットがある。そのようなことを早く絵にしてビジョンとして示すことが必要なのではないか。学校の授業や、図書館、部活などがどのようなかということを経にすることが大事であると思う。「義務教育学校」という言葉に皆さんが戸惑っている。絵にすると、皆さんがみて議論が深まっていく。色々な角度からの意見をもらうことで味があるものとなっていく。

〈北村委員〉「義務教育学校」という言葉を出すのではなく、具体的な事例を示して、それをするのが「義務教育学校」であると説明した方が良い。そうすれば地域の方も理解しやすい。

〈議長〉小松市では先行する意味でサイエンスヒルズをつくり、科学や宇宙、プログラミングをやっている。英語もそうである。他の自治体と横並びではなく、先行してやっており、チカラがついていると思う。先生方も地域もそうである。上を飛び越えてやっていくべきである。

〈北村委員〉他の教育委員会では単なる規模の適正化をやっていくかもしれないが、小松市はそうではなく、教育長も新しい学校をつくっていかねばならないという思いを持っている。地域に応じて、将来を見据えて、学校や子どもたちの学びを考えていく必要がある。

〈越田総合政策部長〉10年後の子どもたちは、ボーダーレスな時代で生きていかなくてはならない中で、集団という考え方は大切だという思いがある。適正な教育も大切であるが、集団という視点も大切な要素のひとつだと思う。

〈議長〉クラスは35人学級でも20人学級でもよいが、単級がダメなら複数級になるようにすればよい。必要な人材（教員等）も投入すればよいと思う。そういうことを改革していかないと、これからの激しくなる国際競争の中で活躍できない。海外の優秀な学生がいっぱい来るような時代になっていく。

〈藤井国際&経営政策課長〉教育大綱をつくって平成31年が最終年になる。青写真を、という北村委員からのご意見もありましたので、もう一度、教育大綱のベースをもとに

将来の青写真を当課も含めて考えていきたい。来年は新たな教育大綱を見直すチャンスであるため、それに合わせ、教育のビジョンというものを一緒に考えながら、教育の質や規模といった議論を重ねられればと思っている。

〈議長〉・本日は第1回の会議であったが、もっと深層を、多面的に考えていかなければならない。まずは理想をつくること。それにどこまで到達できるかが大切になってくる。

- ・我々が歩んできた人生よりも、これから子どもたちはチャンスもあるが厳しい部分もある。それを乗り越えていけるような人財、心、人間関係をつくっていく必要がある。
- ・今からは理系も文系もなくなってくる。両方を兼ね備えた人が活躍していく時代になっていく。
- ・海外の各国では、それぞれに次代の人材育成をしている。我々はその上をいかなければならない。そのような気合でやらなければ日本人は残っていけない。

〈石黒教育長〉日本と海外の子どもたちを比較した際に、ある面では雲泥の差がある面もある。そこをどのように教育していくかということは考えていかなければならない。日本人としての伝統的な面もあるが、発信力や競争力など足りない面もある。

〈議長〉・今の子どもたちは生まれながらに SNS 世代、これから子どもたちは AI 世代である。その時代でのベースをつくっていくのが教育である。

- ・コンピュータや計算機を使えばよいが、一方で、人間力といったようなこともやっていかななくてはならない。多様な能力をつける教育も必要である。
- ・普段の仕事で忙しいとは思いますが、教育大綱や学びの道しるべといった基本的なことも忘れてはいけない。

○閉 会